

こおろぎ

発行日 2003年 9月 1日 No.126
発行元 株式会社
オリジン・コーポレーション
代表取締役：杉井保之
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町 777-1
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187
E-mail origin@ck.tnc.ne.jp
URL <http://www.origin-co.com>

心に残る国体！

膝の靭帯を痛めてしまったそうですね。楽しみにしてこられた国体を棄権しようかと言つたのですから、痛みがずいぶんひどいのでしょうか。でも私としては、是非、杉井さんに国体に出場していただきたいと願っています。こうした機会はそうはないでしょうし、杉井さんに支えてもらった多くの人が、杉井さんの完走を祈っていると思います。是非、何とか完走して、ゴールの感動を「こおろぎ」で紹介してください。

杉井さんの話を聞いて、これまでは実現できるかどうかを先に考えて夢がなくなっていたことに気がつききました。「実現出来るかどうかより、夢に向かって生きることで面白い人生になっていく」というお話を聞いて、私も一度きりの人生を挑戦してみたいと思いました。私も頑張るので、杉井さんも国体、頑張ってください。

この二ヶ月間、本当に忙しい日々が続きました。大学に行くことで忙しくなることは覚悟していましたが、これほどハードになるとは思いませんでした。

トレーニングの時間が取れない日々が続くうち、それまで楽しみだった国体がどんどん重荷になっていき、練習出来ないプレッシャーをお酒で紛らせるという悪循環に入っていました。

私のことを「スゴイ人」と思っている人がいるかもしれませんが、これが私の実態なのです。

そして、練習出来ないまま臨んだ「筑波八時間耐久自転車レース」で右ひざの靭帯を痛め、完全にトレーニング出来なくなりました。医師からの指導もあり、国体への出場をとりやめようかと考えていたとき、友人や講演を聴いた中学生から上記のようなお便りをいただいたのです。

自分としては「国体で自己最高記録を出したい！」と思っていただけにプレッシャーも大きく、もしこうしたエールがなかったら、本当に棄権していたかもしれません。

これまで散々吹聴していたこともあり、「とにかくやれるところまでやってみよう！」と出走してみたものの、膝が痛くて全くペダルを踏み込むことが出来ません。多くの選手に抜かれていく中、悔しさと惨めな気持ちで自転車を漕いでいると、沿道で私を一生懸命応援している子どもや社員さんの姿が目に入って、自転車を漕ぎながら涙が溢れてきました。

これまで私は自分の格好の悪いところを見ないように生きてきた気がします。しかし、子ども達には「たとえどんなに格好悪くても最後まで走りきる父の姿を見せたい」という思いと、これか私を応援してくれた方々のことを思い出し、とにかく走り続けました。

「試合後のことを考えると棄権した方が良いのではないか？」とも考えましたが、私は自分のしたいときにはするための理由を、逃げたいときにはやめるための理由を探す癖があるので、すれ違う選手全員に笑顔で「頑張ってください！」と声をかけながらゴールを目指し、結局一度も歩くことなく完走することが出来ました。

結果として期待した記録は自己最悪でしたが、こんなに多くの人に支えられたゴールはありませんでした。苦しさはゴールまで、思い出は一生です。どうか皆さんも良い思い出を刻んでいって下さい。

神の慮り（おもんばかり）

大きなことを成し遂げるために、
力を与えてほしいと神に求めたのに
謙虚さを学ぶようと、弱さを授かった。
より偉大なことが出来るようと、健康を求めたのに
より良きことが出来るようと、病弱が与えられた。
幸せになろうとして、富を求めたのに
賢明であるようと、貧困を授かった。
世の中の人々からの賞賛を得ようとして、成功を求めたのに
得意にならないようと、失敗を授かった。
人生を楽しもうと、たくさんのものを求めたのに
むしろ人生を味わうようと
シンプルな生活を与えられた。
求めたものは何一つとして与えられなかったが
願いはすべて聞き届けられていた。
私はあらゆる人の中で もっとも豊かに祝福されていたのだ。
(米州立大学病院の病室の壁に患者さんが書き残したものです。)

私は小学生の時に「私はいらなんだ」と母さんに話しました。すると母さんは今にも泣きそうな顔で私を怒りました。そのことを思い出しながら先生の話聞いていました。
私は今、母さんがいけば好きな人です！ 先生の話聞いて、もっと夢を見ながら、いっぱい人生を楽しみたいです。またいつか、もう一度講演に来て下さい。先生に勇気をもらいました。幸せという名の勇気をもらいました。

とてもいいお話でした。何か色々胸にくるものがありました。これまで自分の中で思っていたことを杉井先生に言ってもらったような気がします。人に幸せを求めるんじゃないかと、自分から幸せをつかみに行くことが出来れば、少しは私も以上に何か考えられるようになると思います。現実から逃げず、目標に向かって頑張っていきたいと思っています。

とても印象的な講演でした。聞いていて勉強より大切なことを教わった気がします。人生や人間関係を例える話だったので、「ああ、なるほどなあ」と思いました。どの話も深く心に残りましたが、一番心に残ったのは最後の方で話した障害を持った少女が選んだお金の話です。僕も一円が大切だと思っていたので、十円が大切な理由を聞いて、いろいろ物の見方を学びました。

自分の人生や幸せについて考え直しました。「一度きりの人生なんだから、楽しく生きよう」と言われた時、今の考え方や行動はやっぱりしめつけているし、不幸にしているかなあ、と思いました。私も勉強は得意ではないけれど、人に好かれたいと思っているのです。そのためにこれから「気持ちの良い人」になりたいです。すごく良いお話ありがとうございました。

(北海道 佐呂間町立若佐中学校、生徒さんの感想文より)